

さいたま
見沼

よみせんぼ

2022

Vol. 42

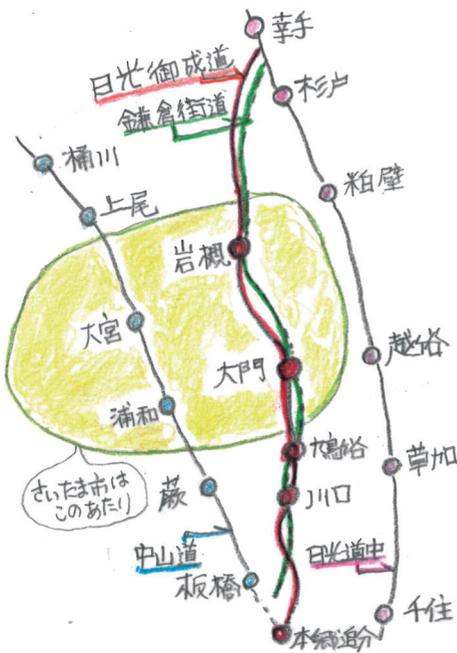
まち歩き 10
街並みから
歴史に思いを馳せて

記録写真家 柿内未央

街並みから 歴史に思いを馳せて

今回から、さいたま市内の日光御成道にっこうおなりみちとその周辺を訪ねます。まずは緑区の大門から北上して中野田のあたりまで。

日光御成道は江戸時代、徳川将軍が日光東照宮へ参詣するときに使った道です（図の赤い線）。本郷追分で中山道と別れ、川口宿、鳩ヶ谷宿、大門宿、岩槻宿を通り、幸手宿の手前で日光道中と合流します。日光道中は千住、草加、越ヶ谷、粕壁（春日部）を通っていますが、日光御成道は大宮台地上を通る中世からの古い道——鎌倉街道（図の緑の線）とほぼ同じ道筋をたどっています。初期の参詣では大門を通らずに岩槻へ出る道や、日光道中も使われましたが、1697（元禄10）年大門が宿場に定められてからは、主にこの道が御成道として使われるようになりました。



日光御成道と鎌倉街道

私が初めて日光御成道を知ったのは高校2年の夏休み、クラブ活動で大門周辺の民俗調査（のようなもの）を行ったときです。部員がグループに分かれ、地域のお年寄りに昔のお話を伺ったり、墓地や道端にある庚申塔や板石塔婆（板碑）などの石造物を調べて歩いたりするというものでした。そもそも私は、調査の何たるかを把握しないまま参加していたほんくら部員だったので、思い出すことと言えば調べた中身ではなく「暑かった!」ということばかり。ただ一つ記憶に残っているのが日光御成道（以下御成道）なのです。大門周辺に行ったのはそのときが初めてで、その後も御成道や大門と聞くと懐か



大門神社



大門宿脇本陣長屋門



大興寺



現在の日光御成道・
大門宿 本陣前



日光御成道沿いの
庚申塔

しく思いながらも訪れる機会はありませんでした。

今回は東川口駅から大門へ行き、そのまま北上して南部領辻や中野田あたりまで歩くことにしました。御成道は車の往来が激しく昔の街道の面影はありませんが、台地上を通っている道だと実感できることや、路傍の庚申塔、道幅の狭さなどに旧道らしさを感じられます。大門宿では大門神社、本陣と脇本陣の長屋門、大興寺なども立ち寄りましたが、これらは街道歩きの本に必ず紹介されているので、主に武州鉄道に関連した場所と、懐かしい風景に出会えそうな、街道から少しはずれた所を巡ることにしました。

武州鉄道は昭和の初期に蓮田～川口間を走っていた「幻の武州鉄道」と称される鉄道です。1910（明治43）年に、武州鉄道の前身である中央軽便電気鉄道が川口～岩槻間の敷設免許を受けたものの、第一次世界大戦の勃発や不況、資金の調達不足などにより工事は停滞。その後、路線の見直しや武州鉄道への社名変更などを経て、1924（大正13）年に蓮田～岩槻間が開通します。申請してから既に14年が経過していました。

そして1928（昭和3）年に岩槻～大門間、1936（昭和11）年に大門～神根（川口市）間を延伸し、さらに赤羽まで延ばす予定もありましたが、営業不振のため1938（昭和13）年に解散が決定。開業してわずか14年後のことでした。東京へ出るのに、40分以上かけて蓮田へ行き、そこから東北本線に乗り換える



武州鉄道路線図

というのはいかにも不便です。加えて1929（昭和4）年には総武鉄道（東武野田線）の粕壁～岩槻～大宮間が開通したこともあり、武州鉄道の乗客数が伸びることはありませんでした。こうして「幻の」や「悲運の」が武州鉄道の枕詞のようになってしまったのです。

武州鉄道は、図のように東北本線の蓮田から現在の岩槻駅の東を通過して、笹久保を斜めに南下、現在の埼玉スタジアム北側を通り、中野田付近から東北自動車道（122号バイパス）と同じ軌道を南下していきます。つまり現在の東北自動車道（野田～川口間）は“武州鉄道の走っていた線路跡”にあるということです。

かつて武州大門駅は大門宿の本陣と脇本陣の近くにありました。駅から御成道へ出る道は「停車場通り」と呼ばれていたそうです。また武州野田駅へ通じる道は野田青年団員をはじめ住民の勤労奉仕によって造られ、やはり「停車場通り」と呼ばれました。今は埼玉スタジアムにつながる道です。この工事に関する石碑が中野田の重殿社じゅうどのしゃにあり「停車場道路工事記念」<枕木朽ちる事あるも我等の努力は今なお石文に>と刻まれています。碑文のとおり、武州鉄道はほどなく廃業し石碑だけが残されました。



重殿社の停車場道路工事記念の石碑

1974年の『埼玉新聞』に「消える武州鉄道の跡」という見出しの記事が載っています。<武州鉄道の跡が、東北高速道・岩槻一川口間の建設工事で消えようとしている>という内容です。また<岩槻市笹久保新田の田んぼの真ん中を分断するように高さ2尺幅3尺の土手が走っている。これが国道122号バイパスの浦和市部分ではそ

のまま路線に一致し、川口市まで伸びている>とも書かれていて、このころまで線路の盛り土部分が一部残っていたことがわかります。1969（昭和44）年の地図にはまだ、岩槻区の浮谷から笹久保新田を抜けて122号線に合流する、線路のような地図記号が確認できます。

また『さいたま市文化財調査報告書 12号』によると、伝右川^{でんう}にかかる武州鉄道の橋の橋台が、2011（平成23）年までは埼玉スタジアムの北側に残っていたようです。私が初めてこのあたりに来た1967（昭和42）年には、まだ盛り土も橋台も残っていたわけで、ほんくら部員であったのが悔やまれます。



武州鉄道の跡ではないか？
1969（昭和44）年の地図

（『地図で見るさいたま市の変遷』より）

南部領辻では、御成道からそれて^{わし}鷲神社へ行ってみました。「辻の獅子舞」（さいたま市指定無形民俗文化財）が奉納される神社です。地図を見ると細い道がくねくねとつながっていてたどり着けるか不安でしたが、予想のとおり行き止まりだったり人家に入る道だったり……。高校生のときも地図を見ながら歩いていたのに、いつの間にか人家の庭に迷い込んでしまったことがあったのを思い出します。植木畑が続く中、地図を何度も確認してやっとたどり着きました。小さいけれど厳かなお社です。ここは見沼代用水東縁に近く、豊かな社叢の境内でひと休みすると、汗をかいた体に風が心地よく感じられます。聞こえるのは木の葉をゆらす風の音だけ。自然と敬虔な気持ちになってしまいました。

実際に巡ったのは以上ですが、既に訪ねようのない所もありました。かつてこの地域の特産品だっ



鷲神社

た「赤山洪^{あかやましほ}」と呼ばれる柿洪関連の場所です。何年か前たまたま見ていたテレビで、柿洪が見沼周辺の特産品だったということを知りました。さらに最近、さいたま市立博物館で「赤山洪」の特別展が開催され、ますます興味深く思っていたのです。

赤山洪は、綾瀬川と芝川にはさまれた大宮台地上の川口北部、浦和・大宮の東部を中心とした見沼周辺で製造されていた柿洪です。傘、漁網、伊勢型紙、塗料など、防腐性と防水性を生かした用途に古くから使われてきましたが、この地域では江戸時代後期から商品として製造するようになりました。それが江戸や関東各地に流通し、赤山洪と呼ばれるようになったのです。

柿洪の生産農家は自家で栽培した柿だけではなく、周辺の農家からも洪柿を買い集め、8月のお盆過ぎに大勢の人で昼夜を問わず洪作り（柿を臼でつく→発酵させる→絞る）に専念しました。生産農家は柿を買ったり人を雇ったりする資金も必要なため、村役や名主など村内の有力者が多かったということです。戦後、化学製品の普及で柿洪は使われなくなり、1977（昭和52）年上野田の萩原家を最後に赤山洪の生産農家はなくなりました。

もう随分前の秋、片柳で何本もの大きな柿の木に、小さな朱い実が鈴生りになっているのを見たことがあります。あれは洪をとるための柿だったのではないのでしょうか。柿洪が作られなくなって、実はもぎとられることなく放置されていたと考えれば納得できます。この柿の木は数年前になくなってしまいましたが、七里小学校のホームページには赤山洪の紹介にそえて「現在でも当時の柿並木を見ることができます」と書かれています。川口市では赤山洪を再現しようという活動があります。また見沼周辺には「洪屋」という屋号の家が残っているとのこと。赤山洪が忘れ去られたわけではないと嬉しく思いました。

見沼全体がそうであるように、今回歩いたこのあたりも新興住宅が立ち並ぶ地域と、耕作放棄地、宅地造成中の茶色い地面が増えていて、私が50年以上前に見たような農村風景を目にすることはできませんでした。東北自動車道も、埼玉スタジアムも、浦和美園駅も無かったころですから無理ありません。天候だけはあの夏と同じ“晴れた暑い日”だったのですが、爽やかな気持ちで思い返せる一日となりました。（記・イラスト 並木せつ子）

連載

埼玉の方言

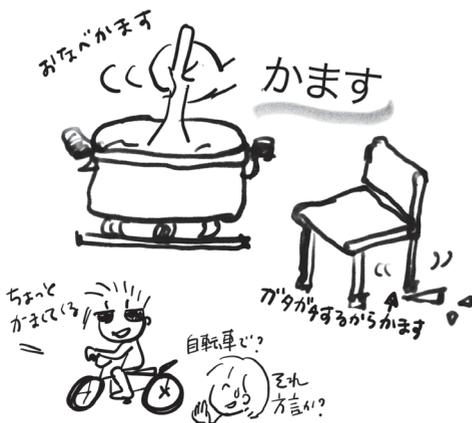
海もないから「ハマナシ」？

私は川口で生まれ育ち、通学・通勤も県南あたりまででした。取り立てて何もないのが埼玉、方言こそ気にしていませんでしたが、独特の言葉づかいがあると知ったのは小学生の頃。新潟出身の先生が毎日のように配ってくれた学級通信の「浜梨？」と題した小話。当時「ハマナシ」に乗っているかどうかはちょっとした話題になるのですが、先生はこの「ハマナシ」がわからない。「ハマ」は小さな車輪のことで、補助輪の付いた自転車に乗っていると「○○、まだハマアリなんだぜ」などと言われたりします。その他にも「『違った』を『ちがかった』というのも川口方言でしょうね」と先生は綴っていました。

この原稿を書くにあたり、高校時代の友人と話題になったのは「シャケ」。県南あたりは江戸言葉の流れで「サシスセソ」が転じるらしく、確かに「鮭茶漬け」も「シャケチャヅケ」と無意識に読み替えていた記憶が。子どもの頃ずっと「布団をひく」と言っていて、「敷く」という漢字を習い、布団は「しく」のだと知りました。他に、「蹴っぽる」「おぞんでる」（殴んでいる）、等々同じ県内でも地域によって多様で、「それも方言なん？」と、語尾に「なん」を付けるようになったのは熊谷住まいの人と知り合ってからでした。

埼玉には他県から移り住んで来た人も多く、関わりの中で言葉やイントネーションの影響を受けてきたようにも思います。一方で、息子の友人の親御さんの中には、母校が子どもと同じという人もいました。人の行き交いを受け止める柔軟さがある、ほどよい距離感でなんとなく居られる、それも埼玉の魅力の1つでは、と思っています。

（記・イラスト 永瀬恵美子）



我が家の神様

我が家の犬たち

犬たちが我が家に来て、この秋には5年が経ちます。出張や打ち合わせ、大雨などの事情がなければ、歩いて15分の職場まで一緒に出勤しています。従兄弟同士のメスのイタリアングレイハウンドには、地中海周辺の地方の風の名前を付けていて、1週間早く生まれた茶色の姉貴分がギブリ、妹分がポーラです。我が家に来た時は華奢な子犬だった2頭も、今では体つきもしっかりとし、個性も出てきて頼もしい。

それぞれの個性

ギブリは、自分の周囲に常に気配りをするタイプで、自分のまわりで悲しがる人が居たり、言い争いが起きると心を痛めてしまいます。事務所で新人を叱っていると「もうやめて！」と飛びかかってきて、私の口を塞ぎに来る時も……時には不穏な雰囲気を感じてお腹を壊してしまうほどです。

ポーラは、いたずらで気まぐれで天真爛漫。飼い主に媚びない性格は、なんとなく孤高の存在という印象。仕事道具を出しっ放しにしていると、おもちゃにして壊してしまうことも。だから整理整頓に気を使います。

私に取っての神様

こうして書いていると、色々と生活に不便が生じているようですが、実のところ、犬たちには感謝しています。家でも職場でも、こまめに掃除をしたり、使った道具をすぐにしまうようになりました。イライラした気持ちの時も、犬のことを思うと、それも訳があつてのことと理解できるようになりました。初めは、犬たちを世話しているつもりでしたが、犬たちに見守られているのは自分たちだと気づきます。犬たちは神様だったのです。そういえば古今東西、神話に出てくる神様たちも気まぐれで天真爛漫、それでいて気遣いがありました。まっすぐな気持ちは、神様も犬も一緒でした。私もそうありたいと思います。



とまつりしゅんいちろう
都祭俊一郎

1975年生まれ。生まれも育ちも、東京の下町。
エンジュの新築の他、保育園や幼稚園の設計（新築及び改修）
を複数行う。（写真 新 良太）





未来を拓く

つなぐ・つくるプロジェクト・10



自分たちの手でキッチンカーを

喫茶ルポーズが大宮区天沼町の住宅街で営業を開始して、26年が過ぎました。障害を持つ人たちとともに働き、今ではすっかり街に溶け込んでいます。常連のお客様が何度となく足を運んでくださり、「安くておいしいお店」との評判もいただいています。しかし、COVID-19感染拡大による来客数減少は顕著で、さらに目の前の大手スーパーが撤退、道路の拡張工事も本格的に始まり、周辺環境の変化には日々大きな不安を感じています。

このような時に「つなぐ・つくるプロジェクト」が始まり、喫茶ルポーズでは「旅するお茶の間 つながるくんカフェ」を中心に運営。文字通り「お茶の間を街の中へ届けたい、多くの人たちとつながりたい」というコンセプトのもと、レンタルしたキッチンカーで、自慢のコーヒーや焼き菓子、ランチを販売してきました。

前述の通り、様々な要因でお客様が減少していく中で、プロジェクト開始当初は、街に出向き、販売機会が増えれば、との思いで取り組んできました。やどかりの里サポートステーションのテラスや他の事業所、公園、企業の駐車場……キッチンカーでの販売には多くの人が集まりました。気軽に声をかけられ、また声をかけやすい環境が自然に生まれています。



あるメンバーは「お店でお客様を目の前にすると緊張してしまっ、間違いのないように、失礼のないようにと、そればかり気にしています。キッチンカーの周りだと不思議と雰囲気や和らいで、話しかけやすいです。こんなに多くのお客様が集まってくれますし」

と、話してくれました。出店する側にも、大きな効果をもたらし、接客業の楽しさを再確認させてくれました。

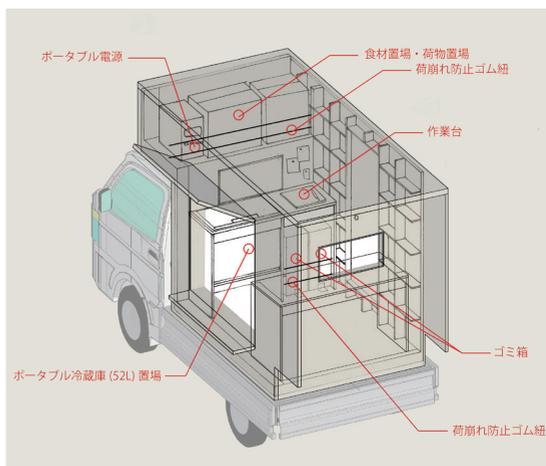
今後もこの取り組みを継続したい、キッチンカーがほしい、という思いを強くし、プロジェクトでは軽トラを活用したキッチンカーづくりを計画しています（本紙インフォメーションコーナーに広告掲載中）。

軽トラを車両部分と荷台キッチン部分に分け、車両は寄贈していただける方を募集中です。キッチン部分は自分たちの手で製作してしまおうということで、製作費の寄付を募っていきたくと思っています。

キッチンカーの設計は、本誌『あの街この街 俊一郎が行く』でおなじみの都祭俊一郎さん。温かい食事と、ほっと一息つけるドリンク類の提供設備、そこにあるだけで楽しくなるようなキッチンカーを設計していただきました。災害時にも炊き出しなどで利用できるキッチンカー、期待は高まるばかりです。

「キッチンカーを自分たちの手で作り、街に出よう！ 多くの人たちとつながりをつくろう」

本紙をご覧の皆さんにも、ぜひキッチンカーづくりの応援者になっていただけたら嬉しいです。車両寄贈とキッチン製作費の寄付をお願いしたいと思っています（寄付の詳細は改めてご案内していきます）。



ぜひこの取り組みにご協力いただいて、私たちのキッチンカーで「旅するお茶の間 つながるくんカフェ」を今後も継続し、みなさんの住む街でお会いしたいですね。（記 田中 学／設計図・イラスト 都祭俊一郎）

未来を拓く つなぐ・つくるプロジェクト

ヤギ日誌



喜々・楽々 はちめんろっぴ 八面六臂の大活躍！

やどかりの里にやってきた2頭のヤギ，喜々と楽々。
この間，いろいろなイベントにお呼ばれました。

ブルースカイ王国

そらと，みどりと，おんがくと。～雑木林の演奏会～（三芳町）



イベントではどこへ行っても「可愛い～～」と大好評。「ヤギは昼間は何しているの?」「お乳は出るの?」と聞かれることもありました。中には「後ろ足で蹴られそう」「噛まれたら痛そう」という声も……ヤギは身近な動物ではないので，触れ合い方を知らない人も多いようです。

Gallery & Space 風歩. (fufu.) 庭 de マルシェ (さいたま市浦和区) —



— ヒールアップハウス 晴れ晴れ事業所移転・開所式 (川口市)



人が慌ただしく、せわしく生活している現代。それでも変わらず、のんびり・ゆったりとした時間を過ごす喜々と楽々。そこがヤギの魅力なのかもしれません。皆さんも、ヤギといっしょに癒しの時間を過ごしてみませんか。

ヤギをあなたの街に——

ヤギの出張レンタルは、4時間2万円から（交通費別） * 2頭ペアです

未来を拓く つなぐ・つくるプロジェクト 2020 事務局

〒337-0026 さいたま市見沼区染谷 1177-4 やどかり情報館内

TEL 070-3260-2020 FAX 048-680-1894

e-mail:tt.prj2020@gmail.com



インフォメーション

人と人とのつながりで
安心安全な未来へ向けたまちづくりを



清掃スタッフ
募集中!!
応募はこちら

M. 今日も 明日も そっと。
毎日興業株式会社

〒330-0842 埼玉県さいたま市大宮区浅間町2-244-1
TEL : 0120-156365 (フリーダイヤル) <https://www.mainichikogyo.co.jp>

芝川ヤギ部の応援グッズ

芝川ヤギ部は、ヤギをお世話することを通じて、人と人が笑顔で交流をし、地域や社会がより良いものとなることを目的として発足しました。グッズの売上の一部と応援チケットの諸経費を抜いた収益は、ヤギさんのお薬や小屋の手入れなどに使わせていただきます。地域に癒やしを与えてくれるヤギ活動をぜひ応援ください!

芝川ヤギ部応援グッズ好評発売中!!

こちらから⇒




求ム!!
軽トラ



つなぐ・つくるプロジェクトでは、“ひとりぼっちを作らない”～つながる場づくり～の取り組みとして、キッチンカーを活用して地域を巡回していきたい…と思っています
軽トラの荷台に“キッチン”と人と人がつながる“希望”を載せて街を走りたい!

その実現のために使っていない軽トラがありましたらお譲りください
※不動車などお断りさせていただく場合もあります

問い合わせ先: 田中(喫茶ルポーズ) 048-657-0202

片柳地区社会福祉協議会

つながりを大切に活動しています



048 (686) 8601

開設時間
月曜日～金曜日
10時から16時



援農ボランティア募集中

やどかり農園 (無肥料・自然栽培)



さいたま市見沼区染谷 1177-4
Tel 048-680-1891

◆**やどかりの里職員募集**

やどかりの里では、職員を募集しています。

- 非常勤 (週3日程度)
- 正職員 (新卒・中途採用)

*要普通自動車免許
*精神保健福祉士、社会福祉士 (資格取得見込み含む)

詳しくはやどかりの里法人事務局までご連絡下さい。
お問い合わせ) やどかりの里法人事務局 048 (686) 0494

すべての人々が人間らしく豊かに育ちあえる地域づくりをすすめるために

こうぬまふくしかい

社会福祉法人 鴻沼福祉会

こころを込めた手づくりの品をぜひ一度お試しください



いちず
とうふ屋 一豆

TEL 048-854-8000

FAX 048-854-3538

さいたま市中央区上峰2-10-20

つばさ共同作業所とそめや共同作業所が手がける、国産・手づくりこだわった本格とうふ。
宮城県産高級大豆「ミヤギシロメ」を100%使用し、オリジナル惣菜も人気です。
大豆本来の濃厚な甘さとコクを味わえる“小さなぜいたく”を食卓にお届けします。

きりしきのパン

TEL 048-854-6910

FAX 048-854-6942

さいたま市中央区円阿弥1-3-15 鴻沼福祉会館内

きりしき共同作業所のパンは食の安全・安心にこだわり、原材料に国産小麦粉を使用しています。(一部商品を除く)

職人とともに手がけるパンは、少し懐かしい味と喜がします。



弁当屋 いちず

TEL・FAX 048-684-1257 さいたま市見沼区染谷2-145

そめや共同作業所のお弁当は旬を感じる手づくり弁当です。
野菜をたくさん取り入れ、手が込んでいると女性に大人気です。

鴻沼福祉会から読者の皆様へ

○鴻沼福祉会では、袋詰め・部品組み立て作業や清掃作業、資源回収など、地域の企業様のニーズに応えるべく様々な仕事を受注しています。働くことをおして障害のある人がさらに輝けるチャンスを求めて新しい仕事にもチャレンジしつづけています。

○障害のある人たちの就労支援、生活支援、相談支援のスタッフを募集しています！ 問い合わせ先：048-854-6890

鴻沼福祉会事業所一覧

●本部・事務局 埼玉県さいたま市中央区円阿弥1-3-15 鴻沼福祉会館内 TEL：048-854-6890 FAX：048-856-0313

《はたらく》●つばさ共同作業所(中央区) ●あざみ共同作業所(見沼区) ●そめや共同作業所(見沼区) ●きりしき共同作業所(中央区)

《くらす》●第1たかさご荘 ●第2たかさご荘 ●第3たかさご荘 ●かえでホーム ●かりんホーム ●よつばハイツ

●なつめホーム(以上、中央区) ●のぞみホーム(見沼区) ●ひかりホーム(西区)

《ささえあう》●中央区障害者生活支援センター来夢 ●地域活動支援センター来夢(以上、中央区)

●見沼区障害者生活支援センター来人(見沼区)

さいたま見沼よみさんぽ

作者紹介

記録写真家 柿内未央さん(表紙写真)

“人としていかに生きるか”について考えるなかで、平和の基盤は自然との共生にあると痛感し、埼玉県の名石農園にて自然栽培を学ぶ。

生かされていること、全ての本質が等しくつながり合っていることを感受してから世界が変わり、その一部として生きたいと思うように。

自然とヒト・人と人をむすぶお手伝いがしたく、“自然とヒト”…いのちの記録をメインに活動している。

ホームページ <https://lit.link/kakiuchimio>

表紙写真によせて

ゴールを決めず 目的も持たず、
ただ“なんとなく気になる”
“こうしてみたい”という感覚に委ねてみると、思いがけない出会いがあったり面白いものが生まれ出たりする。

普段もきっと
もたらされているのだけれど、
“こうしなければ”という
頭の声に かき消されてしまう。

人生もおんなじ。
あれこれ決めない方が
その時々を楽しめ 味わえる。
“こうでなければならぬ”ことは
何ひとつない。

溜まりに溜まった垢を落とし
耳を、身体を、澄ましていきたい。
(柿内未央)

よみさんぽバックナンバーはこちらから
ご覧いただけます



公益社団法人やどかりの里



<https://www.yadokarinosato.org/kouhou/yomisanpo/>

さいたま見沼よみさんぽ 第42号

発行 2022年7月

編集 「さいたま見沼よみさんぽ」編集委員会

〒337-0026 さいたま市見沼区染谷
1177-4

Tel 048-680-1891 Fax 048-680-1894

E-Mail johokan@yadokarinosato.org

<https://www.yadokarinosato.org/>

発行 公益社団法人やどかりの里

理事長 増田一世

印刷所 やどかり印刷

facebook

公益社団法人やどかりの里

やどかり出版



公益社団法人やどかりの里は、この大宮見沼界隈で障害のある人たちとともに地域で生きることを目指して活動を続けています。私たちは長年この地域で活動し、地域の皆さんに支えていただきました。

そして、この地域の人々が織りなしてきた歴史・文化、守り育ててきた自然、地域に根づいた事業等々をもっと知りたいたいと思うようになりました。合わせて、やどかりの里のことも皆さんにもっともっと知っていただきたいと「大宮見沼よみさんぽ」を創刊いたしました。またこの度、広く地域情報をお届けするため「さいたま見沼よみさんぽ」と改題致しました。

「さいたま見沼よみさんぽ」編集委員一同